

# 専門分野 I

基礎看護学実習

基礎看護学実習 I - 1

基礎看護学実習 I - 2

基礎看護学実習 II

# 基礎看護学実習

# 基礎看護学実習 I-1

## 1. 実習目的

看護を学ぶ素地を養うため、医療の行われている場を見学し、患者の生活環境を理解する。

## 2. 実習目標

- 1) 患者の生活の場としての環境を理解する。
- 2) 患者の1日の生活の中で日常生活援助が実施されている場を見学し、患者と看護師のかかわりについて学ぶ。
- 3) 診療を受ける人の受診行動を知る。
- 4) 外来での診療場面を見学し、医療及び看護の行われている場を知る。

## 3. 実習方法

### 〔病棟〕

- 1) 看護師に随行し、見学実習を原則とする。
- 2) 入院患者とのコミュニケーションを図る。
- 3) 15:30~16:30に病棟でミーティングを実施する。

### 〔外来〕

- 1) 診療場面を見学する。
- 2) 看護師の診療介助及び外来看護を見学する。

### 〔総合案内〕

- 1) 各グループ毎に総合案内に立ち、職員と患者のかかわりを見学する。
- 2) 外来を受診する人の受診行動を観察する。

### 〔意見発表〕

- 1) 全体で実習の学びを共有するために、意見発表会を実施する。

## 服 装

学生用実習衣、ナースシューズ

4. 実習時間および単位

基礎看護学実習 I-1 (14 時間) と基礎看護学実習 I-2 (31 時間) をあわせて 1 単位 (45 時間) とする。

(内訳)

- |          |             |
|----------|-------------|
| 1) 病棟実習  | 7 時間 (1 日)  |
| 2) 外来実習  | } 4 時間 (半日) |
| 総合案内実習   |             |
| 3) 意見発表会 | 3 時間        |

<実習配置例>

	1 日目		2 日目		3 日目	
A	8:30~12:30	13:30~16:30	8:30~12:30		8:30~11:30	
	病 棟		外来 総合案内		病 棟	
B	8:30~12:30		8:30~12:30	13:30~16:30	8:30~11:30	
	外来 総合案内		病 棟		病 棟	

5. 実習記録

実習の記録 (P52) を参考に作成する。

6. レポート

- 1) 3 日間の実習について、実習目標に沿って学んだことや気づいたことを A4 レポート用紙 2 枚程度にまとめる。
- 2) レポートは実習記録と共に実習終了後 1 週間以内に担当教員に提出する。

7. 実習評価

- 1) 点数化はしない。
- 2) 臨床指導者・担当教員が実習態度 (礼儀・言葉づかいなど)、実習記録の内容等から気付いたことや指導内容をレポートに記述する。

## 基礎看護学実習 I—2

### 1. 実習目的

健康が障害された患者に基本的な知識と技術を適応し、日常生活援助を実践できる能力を養う。

### 2. 実習目標

- 1) 観察力を養いながら患者の基本的ニーズを理解し、日常生活援助を実施できる。
- 2) 患者・家族との良い人間関係が成立するためのコミュニケーションの必要性を学ぶ。
- 3) 看護学生としての自覚をもち、行動できる。

### 3. 実習方法

- 1) 病態は安定しているが日常生活に介助を要する患者を一人受け持つ。  
患者・家族の同意についてはP37参照。  
受け持ち患者については、実習前週の木曜日・金曜日に看護要約（P70）より情報を得る。
- 2) 基本的ニーズを観察し必要な援助を見出す。
- 3) 患者に関する情報や学んだ知識をもとに、患者に日常生活援助を実施する。

#### (1) 情報から充足の度合をアセスメントし、必要な援助を考える。

- ・患者が困っていることや1人でできないことはないのか。  
また、苦痛なことはないのか。
- ・現在の状態をどう感じているのか。
- ・それらの理由や原因は何か。
- ・そのままにすると何が問題となるのか。

#### (2) 基本的欲求を充足するために必要な援助方法を決定する。

- ・満たすべき欲求は何か。
- ・現在の状況より更によりよい方法はないのか。
- ・実施可能なのか。
- ・安全安楽な方法で個別性は考慮しているか。

#### (3) 決定した援助を安全安楽に実施する。

- ・援助の目的、留意事項をふまえているか。
- ・援助の必要物品は何か。
- ・患者の状態に合わせた手順を考え、原則を守り、安全安楽な援助をする。
- ・患者の状態、反応を観察する。

#### (4) 目的、目標を達成できたか評価する。

- ・患者の反応から行った援助はどうであったか。
- ・悪かったのであれば原因を追求し、改善点をあげる。
- ・患者の反応を見ながら、安全で安楽であったか。
- ・よかった点、改善すべき点をあげる。

#### 4) 記録・報告

(1) 看護記録はメモ帳に下書きをし、指導者の指導を得てから本書きする。

(2) 受け持ち患者に関することは受け持ち看護師に報告する。

5) 学生は毎日、1日の目標と行動計画を立て、指導者の助言を得ながら行動する。

6) 患者とのコミュニケーションを通して、出来るだけ患者を理解する。

7) カンファレンス等を通じ、自己の行動を意識化するとともにメンバーとしての役割を理解する。

(1) 毎日の指導者とのミーティングを密に行い、学生カンファレンスは、木曜日か金曜日に1度行う。

(2) 個人の経験をグループメンバーで共有し、共同学習の場とする。

#### 4. 実習時間および単位

・基礎看護学実習 I - 2 (31 時間) と基礎看護学実習 I - 1 (14 時間) をあわせて1 単位 (45 時間) とする。

・月、火、木曜日は 15:30~16:30、水、金曜日は 13:30~14:30 までの1 時間を病棟にてミーティングを実施する。

<実習時間>

	8:30	12:30	13:30	16:30
月	臨地実習		臨地実習	
火	臨地実習		臨地実習	
水	臨地実習		臨地実習 (13:30~14:30)	
木	臨地実習		臨地実習	
金	臨地実習		臨地実習 (13:30~14:30)	

#### 5. 実習記録

1) 実習の記録 (P52) を参考に作成する。

2) 受け持ち患者情報については、実習後担当教員に提出する。

3) 実習記録は実習終了後、記録内容を整理し、翌週の月曜日に提出とする。

#### 6. レポート

1) 自分が行った援助を、看護論を活用しながら振り返り、「看護の機能と役割」について A4 レポート用紙3 枚程度にまとめる。

2) レポートは実習記録と共に実習終了後、2 週間以内に担当教員に提出する。

#### 7. 実習評価

基礎看護学実習 I - 2 評価表 (P73) を用いて、実習終了後2 週間以内に臨床指導者と担当教員で評価を行う。

## 基礎看護学実習Ⅱ

### 1. 実習目的

健康上の問題により基本的ニーズが阻害されている患者に対し、日常生活援助を中心に計画的に看護を行える能力を養う。

### 2. 実習目標

- 1) 患者の基本的ニーズを把握することができる。
- 2) 患者のニーズに応じた援助を計画し、実践できる。
- 3) 患者の反応から自己の援助の評価ができる。
- 4) 保健・医療・福祉チームとの良い人間関係のあり方を理解する。

### 3. 実習方法

#### 1) 患者を受け持ち、看護過程を展開する。

##### (1) 患者の条件

- ・ 阻害されている基本的ニーズが把握しやすい患者。
- ・ 比較的軽症な患者
- ・ 複雑な問題を持たない患者

#### (2) 受け持ち患者の決定後、看護要約（P70）を用いて実習前日までに担当教員より学生へ情報提供する。

#### (3) 患者・家族の同意を得る（P37 参照）

#### (4) 情報収集

- ・ 患者とのコミュニケーションや観察
- ・ 家族、医療従事者からの情報収集
- ・ 記録物からの情報収集

#### (5) 情報の分析・解釈と問題の明確化

- ・ 情報を分析・解釈し、基本的ニーズの充足・未充足を判断する。
- ・ 全体関連図を記載し、看護上の問題と関連因子を明らかにする。

#### (6) 看護計画の立案

- ・ 看護目標は達成できたかどうかを評価できる表現にする。
- ・ 解決策はOP（観察）・TP（処置及びケア）・EP（指導）に分け、記述する。

※ 看護計画の立案・修正は2週目水曜日の13:30から行う。そのため、前日に教員と看護計画について相談する。

#### (7) 実施

- ・ 看護計画に基づき援助を安全・安楽に実施する。
- ・ 援助技術は原理原則をふまえて行う。
- ・ 患者のプライバシー・尊厳を守るための配慮をする。
- ・ 援助は計画性があり、患者との合意のうえで行う。
- ・ 患者の個別性に応じた援助の方法を工夫する。

#### (8) 評価・修正

- ・ 実施した結果や、患者の反応から援助を評価する。
- ・ 行った援助が目標にどれだけ近づいたかを客観的に評価する。
- ・ 目標が達成できない場合は、その理由を明確にする。
- ・ 看護計画を修正する。

2) 記録・報告

- (1) 看護記録はメモ帳に下書きをし、指導者の指導を得てから本書きする。
- (2) 受け持ち患者に関することは受け持ち看護師に報告する。
- 3) 学生は毎日一日の目標と行動計画を立て、指導者の助言を得ながら行動する。
- 4) 患者カンファレンスやミーティングを通じ、情報の共有化をはかる。
- 5) 学生カンファレンス
  - (1) 毎日の指導者とのミーティングを密に行い、学生カンファレンスは看護計画立案後と3週目の最終日に行う。
  - (2) 個人の経験をグループメンバーで共有し、共同学習の場とする。
  - (3) カンファレンスを通じ、看護計画の必要性を再認識する。

4. 実習時間 (単位)

臨地実習 ..... 90 時間 (2 単位)

- ・最終日以外は 15:30~16:30 までの 1 時間、病棟にてミーティングを実施する。

<実習時間>

週	8:30	12:30	13:30	16:30	
1 週 目					
	臨地実習			臨地実習	
	//			//	
	//			//	
2 週 目	//			//	
	//			//	
	//			//	
	//			//	
	//			//	
3 週 目	//			//	
	//			//	
	//			//	
	//			//	
	//			//	

5. 実習記録

- 1) 実習の記録 (P52) を参考に作成する。
- 2) 実習を終えては、実習目標にそって評価した内容を記載する。
- 3) 実習記録については実習終了後、回収する。
- 4) 実習記録は実習終了後、記録内容を整理し、翌週の月曜日の朝に提出とする。

6. 実習評価

基礎看護学実習Ⅱ評価表 (P74) を用いて、実習終了後 2 週間以内に臨床指導者と担当教員で評価を行う。